

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233番地1		
自己評価作成日	令和2年3月3日	評価結果市町村受理日	令和2年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4491200012-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念でもある「人尊優顔の精神で地域福祉に貢献します」という考えに基づき、優しい心と思いやりを持って、認知症の利用者に対応している。特に、パーソンセンタードケア、ユマニチュードの療法を取り入れて、「認知症マインド療法」として取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭にある「花桃」が満開で利用者がお茶をしながら楽しくふれあえ、気分転換になっています。一人ひとりの思いを尊重する「人尊優顔」をモットーとする優しい心と思いやりで暮らしを営んでいけるよう、職員が力を合わせて取り組んでいます。職員のチームワークで利用者と会話する中、思いを把握した対応で穏やかな落ち着いた生活をし、他の利用者とも楽しく過ごせるようになり、その対応が職員のモチベーションに繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各場所に貼り、周知徹底をはかり理念に添った精神で実践につなげている。	理念に沿った「優しい心」を基本として、職員全員が働きやすいよう、朝の引継ぎ時新人職員に意識付けを行っていることで、他施設から新しく入所した利用者との関係づくりに役立っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年3回保育園の来所があり歌、踊りを披露してくれる。 ・児童館の来園、敬老会、ハロウィン ・地域の行事の参加・世代間交流。	近隣の施設や文理大学の学生との交流で、お互いの向上を見られる付き合いが出来ています。チャリティーショーなどのイベント開催時に参加し手伝えることを行い、地域の人たちとの交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・篠華の学生の受入 ・4月・6月(2回) ・1年6名 4月-3名 6月-3名		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回委員の方々に事例報告、活動報告を行い指導、意見を頂いて職員に伝え、ケアの向上に努めている。	ケアマネージャー・管理者・民生委員・行政の職員・家族代表と会議を行っています。要望事項等、今現在取り組みやすい具体的な参考事例を指導頂き、サービス向上に生かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な問題を市の職員に相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市からのメールの情報収集で、各事例に応じて相談窓口に行き得られる取り組み方法を、職員全員で共有出来るようにしています。それをいつでも閲覧出来るようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回身体拘束廃止委員会を実施し、皆と検討しながら拘束しないケアに取り組んでいる。	職員全体で、月に一度の身体拘束廃止委員会を開き、気付かないうちに発している言葉掛けや無視・さえぎり等、昼間長時間過ごす部屋にいても身体拘束に繋がらないケアを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市・県が開催する研修会への出席で意識づけをはかる。 身体拘束廃止委員会を実施した際、虐待防止についても話し合いを設けて虐待が無いように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者のいない状態ですが、言葉の意味などを理解しながら活動出来る様に支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族と連絡を取り、疑問など生じないよう説明を行い理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃から意見、要望を聞く機会を設けている。また、家族の面会時に意見を聞いて運営に反映出来る様に心掛けている。	ひだまり通信を月に一度送付し、利用者のリハビリにつながる運動を、家族の希望もふまえて対応しています。面会時、聞き取り出来たことを要望として受け、支援に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、担当者会議、ミーティング時に意見を聞いて反映させるよう努めている。	職員の意見を尊重する点で、ストレスチェックを兼ねて、個別面談で聞いています。素直に意見を言いやすいように、リラックスした時間を用いてコミュニケーションをより良く保って行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケアに対する意識や実践、取り組みなど把握する様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を行い資質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県認知症グループ協会に加入、市内の研修会に参加することで資質の向上に取り組んでいる。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に表情観察を行い、気づきを大切にコミュニケーションをとり個々の訴えに耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に背景をしっかりと聞いて知ることによってサービスに繋げている。又、毎月広報誌で管理者が状態、状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望・要望を受け入れて先ず必要としている支援を見極めている。他のサービスが必要な時は関係機関と連携を図り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で掃除・洗濯たたみ・おやつ作りなど出来る事をして頂いて生活感を味わっていただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回定期通信で利用者の様子を知らせている。面会時には本人を交え、要望等も聞いて日頃の支援に取り入れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前働いていた職場に連れて行き、認知はあるがしっかりと覚えていたようでその後職員に度々昔の様子を話してくれている。	昔馴染みの人と交流を持つ事で、利用者の良い思い出やその後の生活面で活かされる事もあり、家族の協力で近場での食事や花見に行くなど、楽しい思いを保ってその後も良い状態で過ごせています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	担当者会議を開いて個々の状態を職員が把握して、利用者同志がスムーズ交われる様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は関わる事はありません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情観察を行い、コミュニケーションをはかり本人の意向に耳を傾けている。出来る限り思いを叶えられる様支援している。	入浴中に、利用者が自分の心の中の思いを話してくれる事があり、その気持ちをきちんと汲み取ってあげられるよう、じっくりと聞くことに努めています。意思伝達が難しくなってきた利用者は、介護記録の記入等を職員が見て思いを共有出来るよう、支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、ご家族・関係機関から情報を得て職員全員に提供して統一を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に生活リズム・心身状態を職員全員が把握するように努めている。 (バイタルチェック・排泄・食事)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員の意見を聞き介助を行いながら現状に即したプラン作りをしている。月に1回モニタリングをし実行出来ているか話し合いながら必要なケアを取り入れている。	利用者本人が、髪をカットして欲しい等の思いを秘めている時、家族とも相談して出来るだけ本人の希望が叶えられるよう、支援しています。ケアマネージャーによる介護計画も3ヶ月に一度見直し、職員全員が対応出来るようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録日に日々の様子、ケアの実践、結果、本人の言動、気づきなどを記録している。又、変化した時は会議を開いて情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応して。法事、地区の行事に参加したり、寿司ツアーを取り入れ社会生活に参加している。又、デイの会場で年に数回合同で、誕生会・音楽療法などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児・児童館・ボランティアの方が年に数回来訪することでふれあいの機会を得て、心身とも楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する主治医を決め、受診や訪問診療で連携を図り支援している。	内科・眼科・歯科とも通院は全て職員が対応しています。従来のかかりつけ医も本人の希望で受診しています。受診した時には、家族に変化や現状を知らせています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が利用者の日々の体調の変化に気づき、適切な受診で対応が出来る様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し病状の経過説明をうけながら、関係性を築いている。退院時は事前カンファレンスに参加し情報共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向に従い看取りを行う場合は訪問看護と連携を図り行っている。	終末期の利用者を、看取りする経験を重ねた職員も多く、重度化した時に本人や家族の希望を踏まえた対応が出来るよう、話し合いを行い職員の意識向上も大切な支援の礎と思い取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携を図り定期的にAEDや応急手当、心肺蘇生の訓練で指導を受け、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て避難訓練を実施し、火災通報訓練や避難経路の認知と消火器の使用訓練を受けている	事業所は比較的安全な場所にあり、年に二回、消防署職員の話を聞くことが出来ているので、活用する為のマニュアルの見直しと勉強会を検討しています。	火災・地震・水害・台風等、昼夜を問わず利用者を安全に避難できるよう、運営推進会議の時、地域の人も含めたボランティアによる協力体制を今後視野に入れたマニュアル作りが求められます。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時は個別対応し必ず扉を閉めて行っている。又、排泄時はプライドを傷つけないような声かけを行っている。	入浴は、一人ずつの個別入浴でゆっくりと楽しんでもらえるよう、ドアの開け閉めや声掛けには充分配慮して行っています。利用者の尊厳・プライバシーを守ることを大切に、一人でいたいと思っている利用者には自由にしてもらっています。	プライベートなことは、個人情報・家族情報含めて守秘義務を守れるよう、接遇研修の中で常に取り上げる事が望ましいと考えており、その継続が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い接しながら本人の思いや希望を受け止め、自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ほとりのペースに合わせて食事や入浴時間をずらしたりして不満なく過ごせるように個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師が来て本人に希望によりカットして、身だしなみを整えている。又、爪きりを行い衣服も職員が用意しておしゃれに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下状態に合わせて食事形態を考慮し対応している。おやつは希望を聞いて提供している。又、チラシ寿司の日を設け食欲増進を図っている。	食事は汁物以外は、全部外注で提供していますが、量は利用者によって調節しています。朝食7:30、昼食11:00、夕食16:00にテーブルで食べていますが、行事食としてじり焼き・きなこ餅・だんごねり等利用者に手伝わってもらう事があります。	夕食に関して16時に提供していますが、おやつとの間隔が短く、もう少し後(17時)に出来るよう、全職員で考慮することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日記録し、少ない人に対しては主治医に報告し、エンシュア等を出していただいている。水分は茶・コーヒーなどを提供することで摂取量を増している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕毎食後口腔ケアを行い、洗浄と誤嚥性肺炎などの予防を兼ねて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在時々失禁のある方3名に対しても布パンツの使用を行い、毎日定時に清拭と更衣を行っている。又、定時誘導を行い、失禁が無いように介助し気持ちよく過ごせるよう支援している。	自立排泄・おむつ・リハビリパンツ着用の利用者に声掛けし、トイレ誘導を行っています。清潔を保てるよう、その都度下着・ズボン・服等のチェックをして、排泄の支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や歩行等の運動を行い自然排便出来る様支援している。おやつも繊維質の多い食材を提供するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、3名ずつゆっくりと午前中に入浴して貰っている。上がった後は皆さん気持ちよくなったとの声が聞かれ不満の声は上がっていない。	週二回、朝・個別に入浴しています。体洗い・洗髪・足浴後の足指ケアも充分に行い、清潔を保っています。一部拒否の時も職員の声掛けで入浴し、機嫌が良くなる利用者がいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のよい日は布団を干し、常にシーツ等清潔に心掛け休んでいただいている。又、ソファでゆっくりと自由に過ごして頂いている。又冷暖房を付けることで快適な安眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに目を通し確認を行い、理解を図ってもらっている。服薬事は名前・日付を必ず確認し、誤薬が生じないように注意している。状態の変化にも対応出来る様日々観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・歌・トランプ・風船・バレーなど皆で楽しめる事も1日の中に取り入れ行っている。年に2回寿司ツアーを行っている。又、衣服やおしぼりを畳むなど出来る事をして頂いて、役割を担ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて散歩、外気浴を行っている。又、地域の行事や四季折々の花見などに外かけている。個別に外出、買い物希望があればその都度対応に努めている。	外出をあまり望まない利用者がいますが、行く場所によっては快く応じる事もあるので、花桃の美しい庭やニワトリ小屋に産んだ卵を取りに行く事で、日常的に外出する機会を作っています。	これまでの生活の継続としての外出を、短時間でも支援する事で双方の関係が良くなり、ストレス軽減になる事に注目して、状況に応じた対応が望まれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症対応型の施設の為お金の所持は1名です。その方は週に2～3回タバコ・菓子・お酒等を買に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をかけたり、手紙を出すことは自由であり、いつでも出来る様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下には絵画をかけて、ホールには季節の飾り付けを行うようにして、快適に過ごせるような空間作りに努めている。又、湿度・温度計を設置して過ごしやすい環境づくりに努めている。	一日のうち長くいる部屋の飾り付けは、利用者の作った貼り絵や絵等を掛けて見られるようにしています。ホールには、花や馴染みの物を四季折々の季節感が楽しめるように配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3ヶ所設置し、好きな場所に座りテレビを見たり、お菓子、お茶を飲んでゆったりと過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に椅子を置いたりテレビを設置して過ごしている。又、温度・湿度計を置いて居心地良く過ごせるようにしている。	利用者の好みを尊重し、部屋替えや居室のレイアウトを家族と相談しながら、馴染みの物や大切な思い出の物を自由に置いています。健康管理のため、温度・湿度調節に注意を怠らないようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下はすっきりして何も置かず、行き来しやすい様にしている。居室でも動線に障害物を置かないようにして安全に暮らせるようにしている。		